

9月6日（木） 12:00–13:00

第7会場 E301

地質学会第125年学術大会（2018 札幌）

堆積地質部会ランチョン

本日の予定

1. 部会長ご挨拶：横川
2. 部会幹事からの報告
 - 庶務：北沢・太田
 - 各賞選考：狩野・高野
 - 編集：石原・藤野
 - 行事：西田
 - ML：野田・小松原
3. セッション報告
 - R9 堆積岩の起源：太田
 - R10 炭酸塩：足立
 - R11 堆積過程：酒井
 - R12 石油石炭：千代延
4. 関連学会・シンポ情報
 - 連合大会：清家
 - 炭コロ：山田
 - 堆積学会：石原
 - 有機地化シンポ：三瓶
 - ISC2018：小松原
5. その他
 - 夜間小集会案内

司会：北沢

1. 部会長ご挨拶（横川）

部会幹事 (敬称略)

- 部会長：横川美和（大阪工業大） → 酒井哲弥（島根大）
- 庶務：北沢俊幸（立正大）・太田 亨（早稲田大）
- 行事委員：西田尚央（東京学芸大）
* 石油石炭セッション行事委員：島津 崇（石油資源）
- 各賞選考：狩野彰宏（東京大）・高野 修（石油資源開発）
- 編集委員：石原与四郎（福岡大）・藤野滋弘（筑波大）
- 幹事ML：野田 篤（産総研）・小松原純子（産総研）

< 幹事の任期と交代 >

- 任期：2-3年（重任可）
- 交代：後任を自分で探して打診，了解を得て，代表十幹事会に連絡，地質学会ランチョンで交代.

セッション世話人 (敬称略)

R9 堆積物 (岩) の起源・組織・組成 :

太田 亨 (早稲田大) ・ 野田 篤 (産総研)

R10 炭酸塩岩の起源と地球環境 :

足立奈津子 (大阪市大) ・ 白石史人 (広島大) ・
山田 努 (東北大)

R11 堆積過程・堆積環境・堆積地質 :

酒井哲弥 (島根大) ・ 松本 弾 (産総研) ・
浅田美穂 (JAMSTEC)

R12 石油・石炭地質学と有機地球化学 :

千代延俊 (秋田大) ・ 島津 崇 (石油資源開発) ・
三瓶良和 (島根大)

この1年の部会の動き

- ホームページコンテンツの充実（2017年愛媛大会の招待講演スライド資料，ランチョン資料の掲載など）

部会員数は196人から207人へ増加

- 各賞への推薦
- 札幌大会への準備

堆積過程セッションでは，現行地質部会からも世話人を1人出していただきました。

2. 部会幹事からの報告

庶務（北沢・太田）

部会ホームページの更新予定

- 2018年札幌大会の招待講演スライド資料（依頼）
- ランチョン資料
- 部会長，幹事の更新
- 関連行事（堆積学会，第四紀学会などから）

日本地質学会2018札幌大会 堆積地質部会ランチョン

各賞選考報告

担当：狩野・高野

- 1) 日本地質学会各賞選考委員会による各賞推薦の指示に従い、部会員に候補推薦を募集し、堆積地質部会として、
 - ・ 研究奨励賞候補1件
 - ・ 論文賞候補2件の推薦を行った。
- 2) 各賞選考の結果、堆積地質部会が推薦した下記の論文が「論文賞」を受賞することとなった。

Osamu Takano and Takashi Tsuji, 2017, Fluvial to bay sequence stratigraphy and seismic facies of the Cretaceous to Paleogene successions in the MITI Sanriku-oki well and the vicinities, the Sanriku-oki forearc basin, northeast Japan. *Island Arc*, 26, e12184, doi:10.1111/iar.12184.

編集（石原・藤野）

- ・地質学雑誌の状況について

行事委員（西田）

1. 招待講演

- ・ R9 堆積物（岩）の起源・組織・組成: なし
- ・ R10 炭酸塩岩の起源と地球環境: 1件
- ・ R11 堆積過程・堆積環境・堆積地質: 1件
- ・ R12 石油・石炭地質学と有機地球化学: 1件

2. ハイライト講演

- ・ R9 堆積物（岩）の起源・組織・組成: 1件
- ・ R10 炭酸塩岩の起源と地球環境: 3件
- ・ R11 堆積過程・堆積環境・堆積地質: 1件
- ・ R12 石油・石炭地質学と有機地球化学: 1件

3. 他学協会との共催

- ・ 共催団体の会員は共催セッションに限り発表申込が可能
- ・ 共催団体会員の参加登録費は地質学会正会員と同額

→全てのセッションで「日本堆積学会」「日本有機地球化学会」
「石油技術協会探鉱技術委員会」より共催の承諾

来年度の学術大会

場所：山口大学

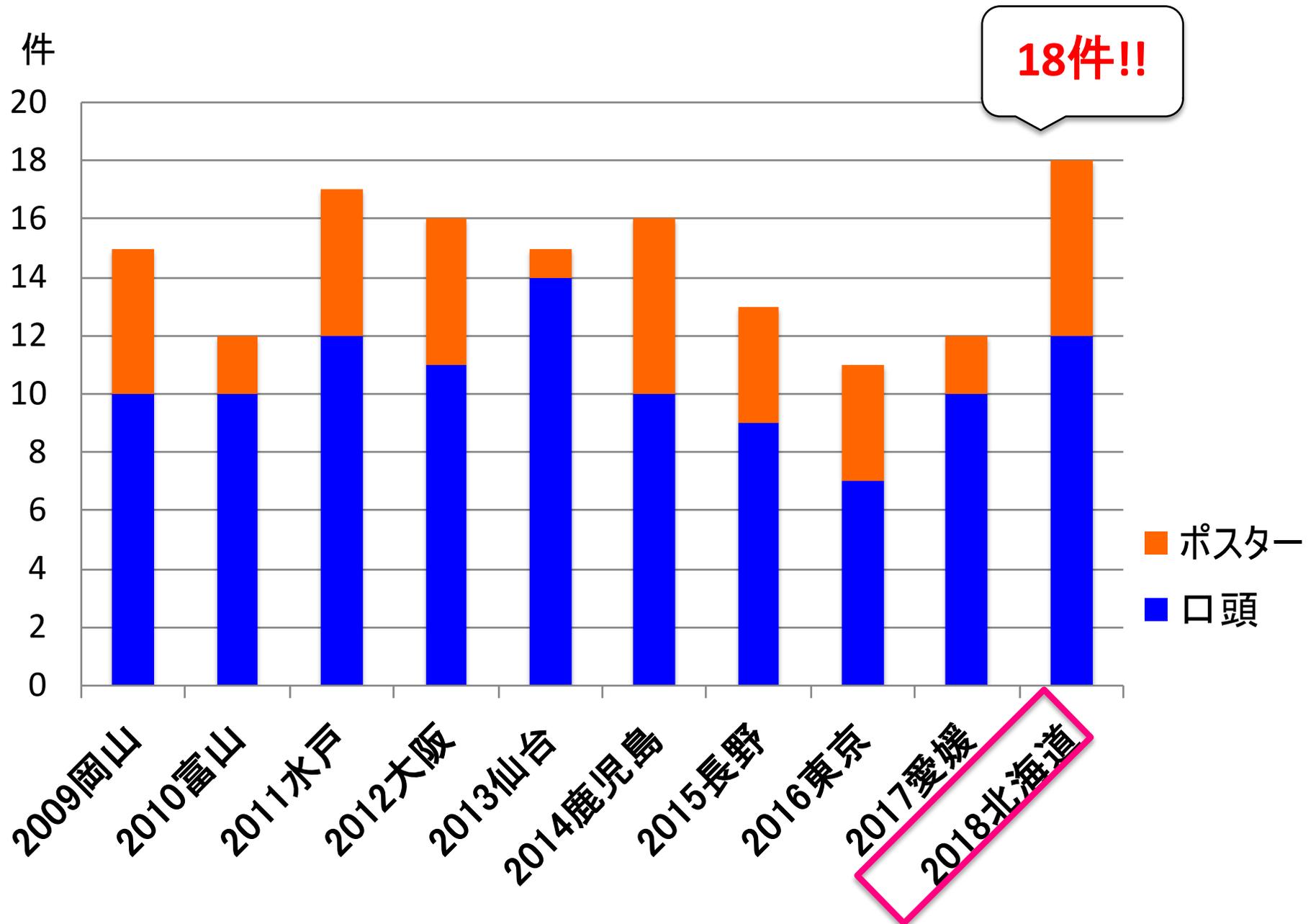
日程：2019/9/8（日）～9/10（火）

幹事ML管理（野田）

3. セッション報告

R9 堆積物（岩）の起源・組織・組成

R10 炭酸塩 講演数の推移 (2009-2018)



R11 堆積過程・堆積環境・堆積地質

招待講演 成瀬 元 氏 (京都大学理学研究科)

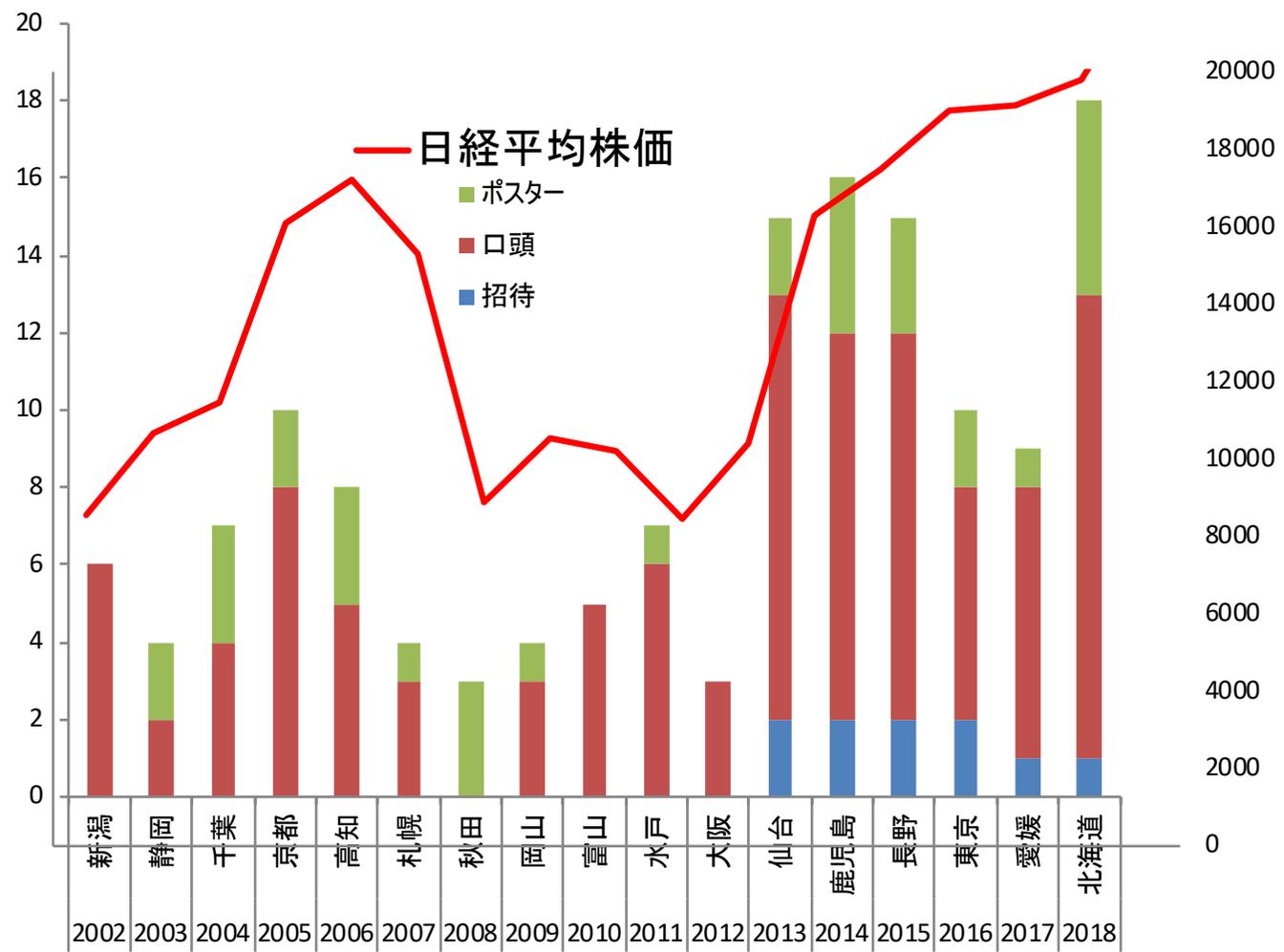
口頭発表 8件 (愛媛大会申し込み数 7件)

ポスター発表 22件 (愛媛大会申し込み数 19件)

本年より、現行過程の方にコンビーナーに
加わって頂いた (JAMSTEC 浅田美穂 氏)

現行過程の講演が増えるように今後アピールを

R12 石油・石炭・有機地球化学セッション 講演者数推移



口頭発表：12人
 ポスター発表：5人
 日経平均：22,580円

4. 関連学会・シンポジウムの 報告, 案内

JpGU 連合大会（清家）

2018年堆積関係セッション

- 堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動
- 津波堆積物
- デルタ（三角州）：複雑系への学際的アプローチ
- 混濁流：発生源から堆積物・地形形成まで

2019の予定

- 日時：5月26日(日)-30日(木)
- 会場：千葉県幕張メッセ

炭酸塩コロキウム2018 in 天草

日時:2018/3/8(木)~3/10(土)

場所:くまもと水循環・減災研究教育センター合津マリンステーション

参加者:21名(社会人, 13名;学生、8名)

講演:口頭 18件;ポスター 1件

巡検:御所浦白亜紀資料館・化石採取

オプション「平成28年熊本地震巡検」

日時:2018/3/11(日)

主な見学地:南阿蘇村-阿蘇大橋・立野二次土砂災害・高野台土砂災害・長陽大橋, 西原村-断層変位, 益城町-堂園地表断層・益城市街地被災地点(木山神社他)

参加者:社会人 6名

炭酸塩コロキウム2019は開催地・日程ともに未定

堆積学会関連の今後の行事

堆積学スクール2018

「生痕学の基礎」 場所 高知大学ほか

講師 奈良正和氏, 清家弘治氏, 泉 賢太郎氏

11月3日～6日 昨日より申し込み開始

堆積学会 大阪大会 会場 大阪市立自然史博物館

大会実行委員長 中条 武司氏

4月19日 プレイベント 遺跡に見られる地層観察(予定)

博物館バックヤードツアー

4月20日・21日 口頭発表・ポスター発表・総会

市民講演会(予定)・堆積学トーク・トーク

4月22日・23日 巡検 和歌山県 田辺層群を予定

案内者 宮田雄一郎氏・松本 弾氏

堆積学関係の学会・シンポ情報&報告 (三瓶)

日本有機地球化学会「有機地球化学シンポジウム」

1. 報告

第36回有機地球化学シンポジウム(2018品川シポ°)

2018年8月30日(木)～31日(金)；(於)東京海洋大学品川キャンパス

世話人：東京海洋大 山中

(2019は金沢大)

2. その他

◎本学会の年会費は格安です（正会員：年額3000円，学生会員：年額2000円）。

堆積学・古生物学等の有用な情報も得られますので，是非，入会ください。

◎学会誌ROG Vol.1号(1976)から33号(2017)までをPDF公開中です。

学会HPをご覧ください。

◎ROG特集号を販売中です（一冊3000円）。

学会HPをご覧ください。



The Québec City
Convention Centre

ISC2018

20th international
sedimentological congress
From 13 to 17 August 2018, Québec, Canada
A SEDIMENTARY JOURNEY THROUGH
3 BILLION YEARS IN THE NEW WORLD



学会名 20th International Sedimentological Congress 2018
場所 カナダ・ケベック ケベックシティコンベンションセンター
期間 2018年8月13~17日

参加者 >1000名 53ヶ国 (日本から16名)
講演数 ~900件 (うちポスター約400件)

~8/12 : プレ巡検2件, ショートコース1件
ワークショップ1件

8/13 : 講演, Keynote lecture, ポスター (前半)

8/14 : 講演, Keynote lecture, ポスター (前半)

8/15 : 1日巡検6件, ショートコース1件

8/16 : 講演, Keynote lecture, 総会

ポスター (後半) , Gala dinner

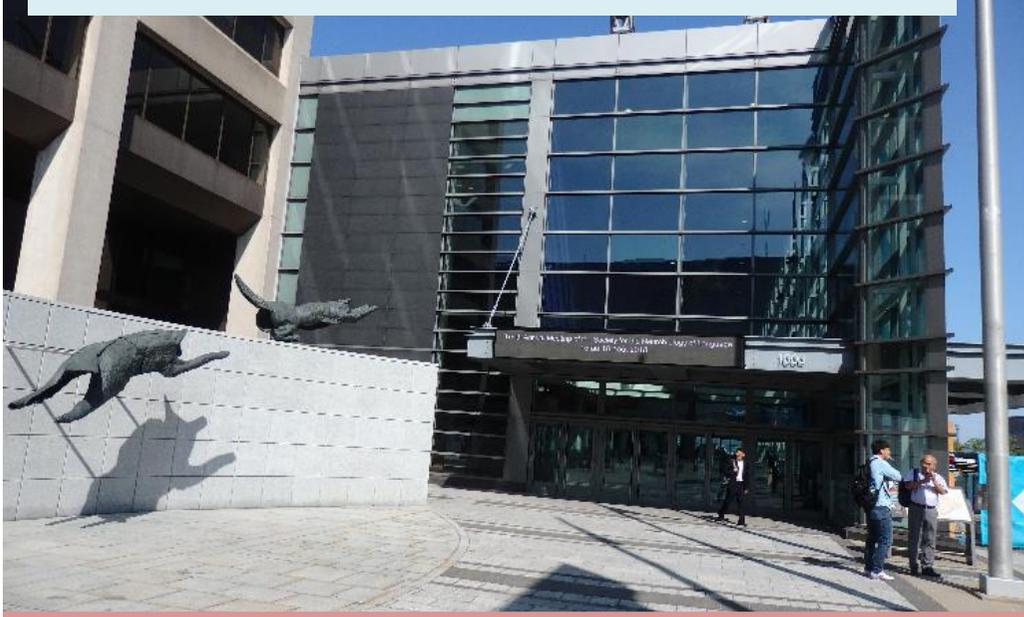
8/17 : 講演, Keynote lecture, ポスター (後半)

8/18~ : ポスト巡検4件, ショートコース2件

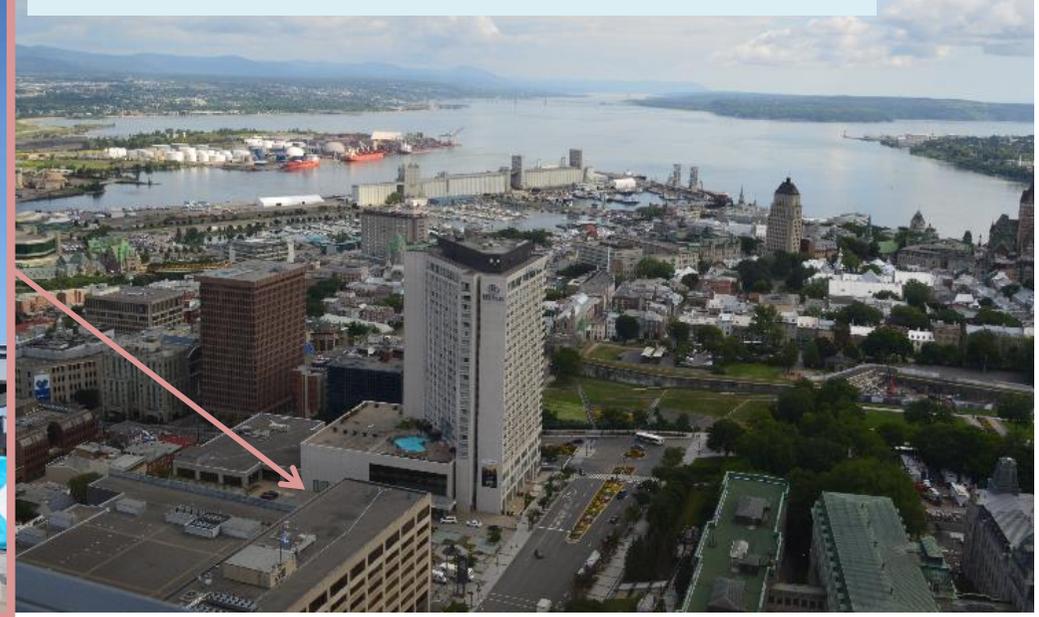
ポスター兼昼食会場



会場(ケベックシティコンベンションセンター)



ケベック市街(セントローレンス川を望む)



2010 Mendoza (Argentina)

2011 Zaragoza (Spain)

2012 Schladming (Austria)

2013 Manchester (UK)

2014 Geneva (Switzerland)

2015 Krakow (Poland)

2016 Marrakesh (Morocco)

2017 Toulouse (France)

2018 Quebec (Canada)

2019 Roma (Italy)

2020 ?

2021 ?

2022 Beijing (China)



9/10-13

Early Carrier Scientists Presentation
(ポスターコアタイム中に開催)



5. その他

夜間小集会

- 産学官の堆積学者の集い：明日の堆積学を担う若手研究者の育成プログラム（世話人：石原与四郎）
9/6（木） 18:15–19:45 第7会場
- 炭酸塩堆積学に関する懇親会（世話人：松田博貴）
9/7（金） 18:15–19:45 第7会場

夜間小集会

産官学の堆積学者の集い：明日の堆積学 を担う若手研究者の育成プログラム

日時：2018年9月6日（木）18：15～19：45

場所：第7会場

プログラム：

1. 経緯説明
2. 産官学連携やコンソーシアムにおける研究
テーマ設定や調整時の考え方について
3. 個別コンソーシアム準備状況および内容紹介
4. 双方向セミナー・技術討論会・コンソーシアム
など今後の展開についての自由討論

夜間小集会「炭酸塩堆積学に関する懇談会」

世話人 山田 努・松田博貴

9月7日（金）第7会場 18時15分から19時45分

（同日14:30-17:45に開催のR10「炭酸塩岩の起源と地球環境」と同じ会場です！）

- 渡邊 剛 「サンゴ礁地球環境学の最近の動向と今後について」
- Kevin L. Garas (M2) Title: Seasonal reconstruction of East Asian Monsoon variability during Mid- to Late Holocene transition deduced from fossil corals in Kikai Island, Japan
（ケビン ギャラス（修士2年）喜界島産化石サンゴを用いた中期・後期完新世における高時間解象度の東アジアモンスーンの復元）